

# 会 議 録

会議の名称	市民参加推進会議（第36回）		
事務局	企画財政部企画政策課企画政策係		
開催日時	平成26年3月28日(金)午前10時00分～午後12時10分		
開催場所	小金井市役所第二庁舎8階 801会議室		
出席者	委員長 西尾 隆 委員 副委員長 浅野 智彦 委員 委員 古畑 昭郎 委員 坂爪 智子 委員 杉本 早苗 委員 福井 高雄 委員 五島 宏 委員 田中 留美子 委員 伊藤 茂男 委員		
欠席者	委員 赤羽 里家 委員 川口 亜子 委員 河野 律子 委員		
事務局	企画政策課長 水落 俊也 企画政策課長補佐 竹田 怜史 企画政策課主任 工藤 真矢 企画政策課副主査 津田 理恵		
傍聴の可否	Ⓐ 一部不可 不可		
傍聴者数	4人		
<p><b>【会議次第】</b></p> <p>1 開会</p> <p>2 市民参加条例運用状況等について</p> <p>(1) 市の附属機関等に公募委員を設置しない理由について</p> <p>(2) 近隣市及び小金井市での異世代交流事例について</p> <p>(3) ヒアリング内容について</p> <p>(4) 次回推進会議の開催日について</p> <p>(5) その他</p> <p>3 閉会</p>			
<p><b>【会議結果】</b></p> <p>1 開会</p> <p>2 市民参加条例運用状況等について</p> <p>(1) 市の附属機関等に公募委員を設置しない理由について</p> <p>○事務局より調査の概要説明を行った。</p> <p><b>【主な意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全推進協議会（18）は、若者や高齢者等の市民の視点が必要である。</li> <li>・交通安全推進協議会（18）は設置条例で委員を委嘱する対象者が定められているため、公募委員を設置しない理由は「①法令等で委員の構成が定められているため」がよいと思う。</li> </ul>			<p>全文記録ページ</p> <p>P1</p> <p>P2</p> <p>P3</p> <p>P5</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防団員は公募であるが、そのまとめを行う審議会である消防団運営審議会（４）の委員が公募ではないのはいかがか。</li> </ul>	P4
<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術館は公共性があるものなので、はげの森美術館収集評価委員会（６）は公開したほうがよいと思う。</li> </ul>	P4
<ul style="list-style-type: none"> <li>・このような調査を行うと、附属機関等が公募市民枠を設定するかを検討するきっかけになる。また、近隣市の状況もわかると、再検討の材料になる。</li> </ul>	P4~5
<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの附属機関等に公募委員を入れた方がよい等の意見を市民参加推進会議からの提案として出してもよいと思う。</li> </ul>	P5
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各附属機関の条例や要綱に加え、実際にどんなことをしているのか資料を収集してから、公募委員枠の設置の如何について協議するとよい。</li> </ul>	P5
<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案を出す場合、市民参加推進会議から市長宛てに出すというかたちとなる。</li> </ul>	P6
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公募市民を入れることだけでなく、委員会が現場の状況を見に行ったり、意見を聞きに行くという方法も提案に入れてもよい。</li> </ul>	P6
<p>(2) 近隣市及び小金井市での異世代交流事例について</p> <p>○事務局より調査の概要説明を行った。</p> <p>【主な意見】</p>	P7
<ul style="list-style-type: none"> <li>・この調査には載っていないが、「武蔵野はらっぱ祭り」や「こがねい子ども遊パーク」のプレーパーク、「ミニこがねい」でも異世代交流がなされている。</li> </ul>	P7
<ul style="list-style-type: none"> <li>・異世代交流という言葉掲げても、ターゲットとなる世代が来るとは限らない。広報や企画を工夫すべきである。</li> </ul>	P8
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各施設で、若者を受け入れる準備があることが必要である。</li> </ul>	P9
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育のイベントに参加するのは退職後の世代が多いようだが、子育て世代が出席していたことがあり、それは保育をつけているからであった。</li> </ul>	P10
<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者が市の施設に来るためには制度や考え方に加え、数やデザイン、位置等も重要である。</li> </ul>	P12
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象年齢に子供が多い。国民投票法の改正案で投票できる年齢を18歳以上に下げの話があり、それも考え合わせ、高校生が異世代交流を通して広い視野をもてるよう、ターゲットとして高校生が重要である。</li> </ul>	P12
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各市の事例を見ると、①市の直営、②民間団体に委託、③町内会等の組織が実施の三つのモデルがある。小金井市でヒアリングする際、誰に聞くと一番よいのか。</li> </ul>	P12
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小金井市では町会は少し弱まっているという話を聞くことが多い。一方、市民活動は盛んであるという話を聞く。</li> </ul>	P13

<p>(3) ヒアリング内容について</p> <p><b>【主な意見】</b>  (ヒアリング相手・内容について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小金井雑学大学に最近若い人が増えてきたため、子育て世代の男性に市政に関心を示してもらうためにアンケートを行いたい。 P17</li> <li>・市政に関心のある人の陳情、議会傍聴、市民活動への参加状況を調査したい。 P18~19</li> <li>・若者の市政への関心というのは、まずはインターネットから入ると思うが、市のホームページは情報を取得しづらいという声をよく聞くのでホームページについて調査したい。 P19</li> <li>・話しやすい雰囲気にするため、車座方式で話し合うとよい。 P21</li> <li>・市内で市民参加を促進するような活動をされている方(①子育て支援グループ、②「き・まま」編集部等の最近小金井に転入してきた母親の方、③「いがねこ」のメンバー④異世代交流事業を行っている方)に問題になっていることや課題をヒアリングするとよい。 P21~22</li> <li>・大学生にとって市のイベントに参加した経験が就職に有利になることもあるので、それを利用して若者の参加を増やすこともできると思う。 P24~25</li> <li>・保育園や学童保育を利用している子育て世代の活動が活発だと聞いているので、できること、やりたいことについてヒアリングしたい。 P25</li> <li>・八王子市の市民参加推進審議会で町会、自治会の活動をテーマに話し合いをしているが、その委員にヒアリングをすることもできる。 P26</li> <li>・東小金井で夏祭りをしているので、実施団体にヒアリングすることもよいと思う。 P26</li> <li>・多くの案の中で、子育て世代はニーズを日々感じている人たちなので、一つの柱になる。また、大学生がもう一つの候補であると思う。 P27</li> </ul> <p>(ヒアリング方法について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要な1~2回は相手に来てもらって、他は個別でヒアリングを行うとよい。 P27</li> <li>・全員で共有したほうがよいと思う。 P27</li> <li>・正式な会議ではなく、ワーキンググループとして行うと、忌憚のない意見を聞けると思う。 P29</li> </ul> <p><b>【決定事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の正式会議の前にワーキンググループとしてヒアリングを行う。次回の会議ではそれをシェアしながら進め方を議論する。ヒアリング相手及び質問項目を正副委員長と事務局で調整する。 P30</li> </ul>	
--	--

<p>(4) 次回推進会議の開催日について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5月21日午後6時30分から開催することとなった。</li> </ul> <p>3 閉会</p>	<p>P30 P31</p>
<p><b>【提出資料】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 附属機関等に公募委員を設置しない理由一覧【当日配布】</li> <li>2 近隣市及び小金井市における異世代交流事例一覧【当日配布】</li> <li>3 ヒアリング内容についての提案一覧【事前配布】</li> <li>4 意見・提案シート【事前配布】</li> </ol>	

### 第36回小金井市市民参加推進会議

日 時 平成26年3月28日(金) 午前10時00分～午後0時10分

場 所 小金井市役所第二庁舎8階 801会議室

出席委員 9人

委員長 西尾 隆 委員

副委員長 浅野 智彦 委員

委員 古畑 昭郎 委員 坂爪 智子 委員

杉本 早苗 委員 福井 高雄 委員

五島 宏 委員 田中 留美子 委員

伊藤 茂男 委員

欠席委員 赤羽 里家 委員 川口 亜子 委員

河野 律子 委員

---

#### 事務局職員

企画政策課長 水落 俊也

企画政策課長補佐 竹田 怜史

企画政策課主任 工藤 真矢

企画政策課副主査 津田 理恵

---

傍聴者 4人

(午前10時00分開会)

◎西尾委員長 皆さん、おはようございます。当初、2月14日に開催予定でしたが、大変な雪で本日まで延びてしまいました。桜も咲き始めたころにこうやって集まることができて、ちょうどよいのではないかと思います。

それでは、第36回市民参加推進会議を始めたいと思います。今日は、赤羽委員と川口委員が欠席ということです。それから、伊藤委員は、この年度末でご退職と伺っておりますが、10時40分ぐらいに退席されるということで、退席前に一言コメントをいただければと思います。市民参加条例施行規則第24条で半数をもって成立ということになっておりますので、今回は成立いたします。

会議の半ば、11時前後に5分程度の休憩を入れたいと思っております。

それでは、資料につきまして、事務局のほうからご説明をお願いいたします。

◎事務局 資料の確認をさせていただきます。事前に送付しましたものが2点ございます。資料3の「ヒアリング内容についての提案一覧」は、委員の皆様からいただいたヒアリング内容についての提案を一覧表にまとめたもので、A4縦1枚のものです。次に、資料4は、前回の

会議の傍聴者の方から提出されました意見・提案シートで、A4縦位置2枚のものです。この2点が事前に送付したものです。

また、本日机上に配布したものがございます。まず、本日の次第書、次に前回の会議録で、皆様からいただいた校正を反映させたものです。資料ですが、資料1「附属機関等に公募委員を設置しない理由一覧」は、A4横位置3枚のものです。資料2「近隣市及び小金井市における異世代交流事例一覧」もA4横位置3枚です。送付漏れ等はありませんでしょうか。さらに本日、最後に、前回会議の資料2-1、2-2を使用します。

以上です。委員長、よろしく願いいたします。

◎西尾委員長 本日の議題は、お手元の次第にありますように、最初に、市の附属機関等に公募委員を設置しない理由について、2番目に、近隣市及び小金井市での異世代交流事例について、3番目に、ヒアリング内容について、これがメインの議題になります。それから次回の会議の開催日、その他になっております。

では最初に、市の附属機関等に公募委員を設置しない理由について、ご説明を事務局のほうからお願いいたします。

◎事務局 ご説明いたします。資料1をご覧ください。こちらは前回、伊藤委員から提案されましたので、庁内の公募市民を置かない附属機関等の事務局に照会し、このような結果となりました。

公募委員を設置しない21の審議会に理由を照会したところ、理由が5種類に分かれており、①の法令等で委員の構成が定められているためという審議会が3件、②資格や免許の保有が求められているという審議会は0件、③高度の専門性が求められているためという審議会が9件、④個人情報や審議内容から判断して公募委員の設置になじまないためという審議会が3件。それ以外に17番の都市計画審議会は市民公募委員の設置を検討中ということでした。①から⑤の理由の横に、さらに詳しい説明がございますのでご確認ください。

◎西尾委員長 どうもありがとうございました。全部読むのは少し時間がかかると思いますが、これについて何かご質問等がありますか。

◎浅野副委員長 16番の青少年問題協議会、これは以前にも伺ったことがあるんですけども、たしか20代の方が入っていたと思うんです。これは法令等で委員の構成が定められているということで、今すぐわからないかもしれないですが、若い方がどういう指定で入られているのかということがちょっと気になるんですが。

◎事務局 確認したところ、青年会議所に依頼して出していただいたということでした。

◎浅野副委員長 それは条例上は、どういう枠でしょうか。

もしすぐおわかりにならなければ、後で教えていただくのでも構わないんですが。

◎事務局 すぐにはわかりかねますので後日お知らせします。

◎西尾委員長 青年会議所だと、年齢は40歳ぐらいまでですか。

◎事務局 40歳です。

◎西尾委員長 だから、若いと言えば若いですが、20代とは限らないかもしれないですね。

◎浅野副委員長 たまたまですかね。

◎西尾委員長 それぞれ何らかの理由があって公募をしないことがあり、説明を求められるとこういう形で出てくるという話ですね。この調査を実施してやはり意味があった点は、都市計画審議会からは、検討するという返事が来ていることですね。恐らく、個別に見ると、全くもつともだというものもあると思いますし、いや、公募を入れてもよいのではないかというのものもあるかもしれません。それぞれ個別に見ていかないと、何とも言えないと思います。

◎杉本委員 18番の交通安全推進協議会、これの公募委員を設置しない理由が、「団体等との協議の場と捉えており、性格上市民公募がなじまない」というこの1文が、皆さん納得いけるかどうか、その理由として掲げられるような文章になっていないんじゃないかと思います。

特に、若い方たちこそこういうところに入っていただいて、若者の事故、バイクの事故や自転車の事故が最近非常に多くなっていますよね。社会問題にもなっています。なぜそういう若い人たちの代表として市民公募を行わないのかということと、これは理由の中身を変えられたほうがいいんじゃないですか。そのことでは納得がいく文章にはなっていません。

◎西尾委員長 この回答は、この枠の中で回答してもらっているのですか。それとも、長文で回答されたものを要約したのでしょうか。

◎事務局 審議会の事務局に様式を送付して直接記入してもらいました。

交通安全運動というのは、多分中心になってやっているのは、警察になるんです。今は市役所も一緒にやっているんですが、警察と市役所が一緒にやっていく中で、関係する交通安全団体の方と一緒に交通安全運動を推進していくという協議会なので、協議会員がそれを推進していくという知識がないまま協議会に入ってもなかなか力を発揮する場面がないのかなというような感じはいたします。

◎西尾委員長 この「性格上」というのが、慣例と当事者の方は感じられるかもしれませんが、外から見ると、交通安全はかなり一般的なテーマですから、意外と関心がある人はいるかもしれないと言えるかもしれないですね。

こういう質問をすることによって、考えていただくということで、何ならば、交通対策課に、この「性格上」というのがどういうものか、聞かれてもいいかもしれないですね。

◎杉本委員 それと、この「なじまない」ということに合わせて、ここは先ほど浅野さんもおっしゃったように、公募すべきだというのが私の提案です。しっかりとご高齢の方にも、何が、どこが交通安全上問題なのかというのは、市民のそういう目線で話し合わないと、勝手に警察や行政だけで決められるようなものではないと考えるからです。

◎西尾委員長 ご意見、どうもありがとうございます。

◎福井委員 公開、非公開の基準というのは、各附属機関の審議会自体が決定して公開、非公開と決めているのか、それとも、審議会の委員の窓口の担当課が判断して、公開、非公開の基

準を決めているのかというのはわかりますでしょうか。

◎事務局 今、全部の条例と要綱を持ち合わせていないのですが、特に個人情報情報を審議するような、例えば情報公開・個人情報保護審査会などは、条例上、非公開とするという形でもともと決まっていますので、その都度決めているわけではないと思います。

◎福井委員 じゃあ、基本的に、担当課で公開、非公開の基準を決めているという位置づけだということですね。

◎事務局 もともと設置のときに、条例で決めているものが多いのかなと思います。

◎福井委員 なるほど。例えば、4番の消防団の運営審議会といっても、消防署の団員とはまた違うんですけれども、これも一般公募で消防団員というのを公募していますよね、団員自体は。そのまとめ的な審議会だからどうかなと考えます。6番の、はけの森といっても、これも右のほうに「学術的に高度な知識が必要」ということなんですけれども、小金井市の美術館というのは、公共性があってオープンなポジションだから、公開性があってもいいんじゃないかということで、意見として述べたいと思います。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。

◎古畑委員 11番、「会議を行っていない」というのがありますね、福祉サービス苦情調整委員と言うんですか、11番。

◎事務局 これは委員会じゃなくて委員ということで、恐らく独任でやられているということじゃないかなと。

◎五島委員 あ、2人か。

◎古畑委員 こんなのは、市民が入ってもいいんじゃないかな。

◎杉本委員 2人で会議しても。

◎事務局 独任の方がお二人いらっしゃる形で、話し合っ決めてというよりも、一人ひとりの方が、担当の範囲を決めていくという感じ。

◎西尾委員長 オンブズマンのようなものでしょうか。

◎事務局 そうです。

◎杉本委員 オンブズなんですか。オンブズの制度を持っているという。

◎事務局 福祉サービスに対して苦情がある方の相談を受けて、その対応を考えたり、調査したり、市に是正の依頼をしたりする機関です。

◎西尾委員長 独任制だというのは、役割分担でされているわけですね。

◎事務局 お二人で話し合うことはあるのかもしれないんですが、会議体として組織が設置されているわけではないというものです。

◎西尾委員長 3人だと会議ですから、2人だと相談という感じなんじゃないかな。こういう質問をすると、それぞれの附属機関等が公募について考えるきっかけになるだろうと思うんです。そのときに、テーマによって、他の自治体も全く公募はしていないところもあるし、一部やっているところもある等、これは小金井市だけのリストですけれども、近隣市の状況な



んていうのがあると、また再検討の材料になるかもしれないですね。

◎**五島委員** 半分提案ですが、今の段階でそれぞれの委員会の中で話し合いをした上での話ですけれども、こういうふうにしてほしいとか、提案か、提言かわかりませんが、そういうようなことを委員会の名前で出していくというのもやってもいいのかなと、今、ちょっと思いました。それを、それこそオフィシャルの会議で、どの委員会にどういうふうにするとか、これはしようがないだろうとか、そういうのは多分最初に委員長が言われたように出てくると思いますが、それをしてもいいのかなと。それで、それをやったかやらないかとつつくのではなくて、そういうような動きをしておくこともいいのかなと思いました。

◎**杉本委員** 私も賛成です。

◎**伊藤委員** それぞれの委員会は、要綱や条例を持っておりますので、仮にこの表のみから判断をなさんと、やはり少し間違った方向というのは変ですけれども、言い過ぎの部分が出てくるかもしれないので、もしも今お話しされているようなことをやるということであれば、それぞれの附属機関の条例なり要綱なりを取り寄せるということと、実際問題として、例えば1年間、どんなことをしているのかということについては、資料を収集してから判断をするというか、協議をしていったらいいと思います。

◎**西尾委員長** そのほかいかがでしょうか。

◎**杉本委員** もちろん五島さんがおっしゃったように、これだけで判断していくことは拙速だと思いますし、やっぱりある程度資料を、情報を共有した上で審議する。今、五島さんのおっしゃったのは、審議の対象にして、それを提案するところまできちっと議論をしてということをおっしゃったんだと思うので、そういう意味では、資料をこちらが求め、それについてきちっと情報を共有するということでは、五島さんの意見には賛成です。

◎**西尾委員長** 個別に見ると、委員会という名前ではありますが、本当にそれぞれ固有の専門分野だったりとか、特別な重みとか、責任とかというものがあり、本当に一般論でなかなか語れないと思いますが、公募もあり得るということをどこかで考えていただくとか、挙証責任とは言いませんが、公募をしない場合は理由を常に説明できるようにしておくことは大事なかなと思います。

◎**浅野副委員長** 先ほど話題になった、交通安全推進協議会で、これは設置条例に基づいているのですが、設置条例を見てみますと、委嘱する対象が定められているようなんです。市内の各官公庁の職員、市内公私立学校の教職員、民間団体の代表及び学識経験者等の中から市長が委嘱と。なので、回答のあり方としては、ほかのところに倣って、「設置条例で定められている」でいいのかなと思うことが一つと、もう一つは、仮にここで公募しようとしたら、条例の改正が必要になるということですか。条例の改正って、イメージですけれども、結構大変な作業のような気がするんですけども。

◎**西尾委員長** そうでしょうね。モデル条例のように、ひな型がどこかにあったりすると、そう簡単でないこともあるかもしれないですね。

◎浅野副委員長 そうすると、ほかの条例で構成員が定められているところというのは、これはそう簡単には公募市民制を入れることはできないという、できないというか、結構ハードルが高いという、そういうことですか。

◎伊藤委員 仮に、例えばですが、この市民参加推進会議のほうで、この委員会については公募の委員を入れたほうがいいんじゃないかというふうなことがあって、その担当の委員会のほうで言われて検討した結果、公募市民を入れましょうということになれば、条例とか要綱を変えればそれはよろしいので、半年ぐらいか、3か月ぐらいかはかかるかと思いますが、条例ですと議会の議決が要りますし、要綱は起案をして決裁をすればできます。

◎浅野副委員長 委員会自体の決定ではないということですよ。議会を通さなければいけない。

◎伊藤委員 そうですね、条例ですとね。

◎浅野副委員長 我々としては、どこに言うべきなのでしょう。該当の委員会にそれは申し上げるべきなのでしょう、公募市民を入れてくださいというのは。それとも、市長なり議会なりに申し上げればいいことでしょうか。

◎伊藤委員 直接その委員会宛てにということは少し難しいと思いますので、市長宛てに、検討した結果、この委員会については公募委員を入れたほうが良いというふうな形で答申をいただいて、市長のほうで、逆に担当委員会のほうに、こういうのが来たので検討してくださいと伝える形にはなるとは思いますけれども。

◎浅野副委員長 わかりました。ありがとうございます。

◎西尾委員長 専門性という言葉がいろんなところに出てきて、この1番の指定管理者選定委員会というのは、やはり経理に非常に詳しい人が、芸術文化とかスポーツとか、その道に本当に詳しい人がいる判断をして選定にかかわるとのことだと思えます。それ以外に現場の専門性といいますか、意外と市民のほうがよく知っているということもあり得るだろうと思えます。というので、言葉だけでは全部判断し切れないところはあるだろうと思えます。

では、こちらからの公募をできるだけ増やすという、そういう考え方がありますので、これは最終的な提案のところでもまた考えたいと思えます。

◎五島委員 補足ですけど、例えば今の交通安全推進協議会のところとかは、現場の状況を、今、委員長が言われたのと同じことですがけれども、知っている一番現場に近い人の意見をどうやってこの中に入れていくかということだと思うので、それはもちろんちゃんと仕組みとして公募を入れていくことのほうがいいですが、そうではなくて、その委員会ないし審議会などの運営の中で、途中で現場の状況を見に行くとか、意見をとりとか、そういうようなことをしてもいいと思うので、段階、そのレベルが幾つかあると思うので、そういうことも含めて提案に入れてもいいのかなと思いました。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。制度的に無理だということではなく、そういうことも時には再検討する、見直しということがあり得るということですね。条例も、確かに議会

で取り上げるというのは大変なことだと思いますけれども、そういう市民の声をどんなふうに反映するかということは、まさに議会の課題ですから、ぜひ考えていただければと思います。

それでは、次第の2、近隣市及び小金井市での異世代交流事例についてという資料がありますけれども、まず事務局のほうからこの資料のご説明をお願いいたします。

◎事務局 ご説明いたします。資料2をご覧ください。前回、浅野副委員長から提案がありましたので、近隣市及び市内に異世代交流について照会をしました。柏市の「地縁のたまご」や港区の「芝の家」のようなコミュニティづくりの活動拠点として、固定の場を提供するという事例はないようでした。ただ、固定の場ではないですが、イベントや行事の中で異なる世代が一緒に何かをするというものが多いうようでした。

◎西尾委員長 これもかなり中身の濃い資料です。

◎杉本委員 ここには記入されていないんですが、非常に長い間、20年近く続けていらっしゃる団体が少し抜けているというか、紹介させていただいてもいいでしょうか。

◎西尾委員長 はい。

◎杉本委員 年に1回のあれなんです、「くじら山はらっぱ祭り」、あれは児童館と市民が一緒になったお祭りを年間1回やるんですが、それまでの準備期間というのが非常に長くて、それは20年近くやっているというのと、あとNPOの「こがねい子ども遊パーク」、これが学芸大学や、あるいはくじら山はらっぱで、異世代交流も兼ねて子どもたちを自由に遊ばせるという、そういう空間をずっと長年作ってきています。ここが皆さんに知っていただきたい、「ミニこがねい」というのを3年ぐらい前からやりまして、これは子どもたちが自分たちで、小金井のミニこがねいのまちを公民館や何かで1日か2日つくるんです。そこには商店街があり、従業員や行政職員に、子どもがなるんですけれども、市長もいて、あと銀行もあるんです。それぞれを子どもたちが自分たちで考えて、そこにまちをつくるんですが、それは大人がきちっとアドバイスして大人も参加できる、そして子どもたちが主役というようなことを毎年やっています。

◎西尾委員長 それぞれの役割を理解しないとできないですね。

◎事務局 この資料は、近隣市及び小金井市の各所管に挙げていただいているんですが、基本的には行政の事業ということが挙がっているということにして、先ほど挙げていただいた2つは行政の委託事業とか、そういう形ではないのかなと思います。後援や共催団体は一部入っているかもしれませんが。

◎西尾委員長 私が住んでいる三鷹は、該当なしとなっています。これは三鷹の企画部門に照会したのですか。

◎事務局 そうです。結果として異世代交流になった事例はあるそうなのですが、異世代交流を目的としたものというものではないということで、該当なしになっています。

◎西尾委員長 なるほど。ないのかと思っていました。2月14日以降だったため資料等は出していないのですが、三鷹市の市民協働センターというところに行ったら、まさに異世代交流

を学生と年配の人も含めてやっていて、ああ、こういうのがあるんだと思いました。

ただ、市民協働センターというと、行政から一步距離を置いていますので、そういう意味で、仮に三鷹市の企画部門がそれを把握していても、ここには出てこないかもしれないですね。

◎事務局 各市の主観なので、小平市さんとかで言うと、例えば60歳以上とか16歳以上ということが入っていたりということで、世代ということが引かかると、この調査の中に案件を挙げてきているという形になっていて、例えば調布市さんとか府中市さん、武蔵野市さんなんかだと、本当に異世代交流というのが主たる目的である事業だけに絞ってあるということで、ちょっと中身にばらつきは出てくるようです。

◎西尾委員長 言葉をどう解釈するかで大分違ってきているんだろうと思いますけれども、この小金井に挙がっている3つの例は、皆さんご存知でしょうか。

◎五島委員 2つ目の事例の実施主体のひ・ろ・こらぼの理事なので、中身の把握はしていますが、先ほど杉本さんが言われた2つの事例は、僕の知っている人がかかわってやっていたりして、この資料は、そのまま今の話が出たことそのものですが、例えばわんぱく夏まつりだとかということは、結果的に異世代交流になっていて、それこそ参加はもうリタイアした人から、下は未就学の子どももいたりして、1週間ぐらいやるイベントなんですけど、途中で野川沿いで泊まったりするイベントなんですけど、そういう世話をリタイアした人がやっていたりするようなイベントで、もう三十何回やっているんですけど、結果的にそういうふうになっているだけで、手を挙げた人が集まっているだけなので、異世代交流ということを掲げているわけではないので、どういう場を作るのかとか、若者の参加もそうですけど、もちろんそのメインのターゲットを決めて、そこに集中して声をかけていくというやり方はあるんですけども、そこだけ、例えば子どもだ子どもとうたったから、子どもがいっぱい来ればいいという話ではないので、そのイベントなり、場の作り方だと思います。

◎西尾委員長 たしかに難しいですね。事実上、異世代交流のものはたくさんあるに違いないわけですね。

さっき言った三鷹の例も、地域と大学というテーマで、大学生がある授業でいろいろ研究したものを発表することに時間の半分ぐらいを使っていました。その中に食とか農を通じてどんなふうに地域と大学生がつながるかを提案していました。実は、市民協働センターなどはあまり大学生なんか出てこないの、そういう意味でそこが際立ちましたが、異世代交流の言葉は使っていないですね。

◎五島委員 同じことを言いますが、企画段階で、考え方というか、作り方というか、誰に来てほしいのかということを考えてその企画を使っていくということだろうと思います。

僕自身は、例えば異世代交流事業とかと書かれると、僕は行く気が起きないので、それは前にここでも出たかもしれませんが、団塊世代集まれとかと書いても、その人は団塊世代と言われたくないという人たちが多いので、そういうことを広報か、企画かわかりませんが、そっちも工夫しないといけないのかなと。

◎西尾委員長 おっしゃるとおりで、私も異世代交流なら行こうかとはあまり思わないですね。里山であるとか、何か自分の興味のあるものならばピンときたりしますけど。だから、副題みたいなどころはあるのでしょうかけども、できれば異世代が交流できる場がいいですね。そういう意味では、難しいテーマですね。

それぞれ役所から挙がってきたということなので、個別の問題についてご存知の人は多くないでしょうか。シルバー大学とか。シルバー大学というのは、小平の真ん中あたりに並んでいますが、小・中学生と交流を目指していくというものです。社会教育とか、ネットワーク大学とか、いろいろ三鷹のほうにもありますが、あまり交流は多くはないかもしれないですね。そういうものを使って、何か社会教育的なものについて、異世代教育にトッピングといいますか、それを加味するという考え方でしょね。

社会教育会館と児童館が一緒になっていたりする施設のあり方で、こういう交流がやりやすかったりということがあるんじゃないかと思いますね。

◎杉本委員 それに関してなんですけど、私も公民館の企画実行委員をずっと長くやっていたときに、やっぱり若い人たちが来ると何か悪さをするんじゃないかということ。

悪さというのは、要するにたばこを吸ったりとか、その世代のね。とある公民館で配置換えをしちゃったんですよ。その配置換えというのは、そこでたむろしないようにソファや何かを下に置いたとかというような事例があって、それからそこに若者が来なくなったりとか、あるいは若者が、緑センターも一時そういうところがあった、若者も来ていいよという雰囲気を作らないと、子どもは公民館には立ち寄れないというのがありますね。

だから、先ほど五島さんがおっしゃったように、その施設、行政が、若者をどういうふうを受け入れる、来てもいいんですよ。来ちゃだめということじゃないんですけど、受け入れる準備があるかどうか。こちら側の考え方によっては、もう最初から、それを見て察知しますから、若い人たちは敏感なので、もう一歩も足を踏み込めないという、そういう公民館のあり方もありましたね。今は改善されているというふうには聞いています。

だから、作りはとっても大事なので、ぜひ貫井北町センターについては、もちろんご存知だったら、それこそ、若者と異世代の交流の場になるように皆さんの意見が集約されていると思うんで、お手本になればいいかなという気はします。

◎西尾委員長 Jリーグの試合で観客の入場制限が大きな問題になって、そういうのを変えたりすると本当に大問題ですけども、そういうことをしなくても排除の気持ちがいرونなどころに出たりするというのは問題ですね。

ほとんど無意識で仲よしクラブみたいになるとなかなか入りづらくなるというのは、どんな施設にもあり得ることだろうと思います。

◎杉本委員 それに関連なんですけど、高校生が公民館や何かの部屋取りが確かできないようなシステムになっていたというのは、以前議論になったので、そこら辺も調査をしてみたいかなと思います。

◎事務局 公民館の運営は市民参加から少し外れているかなと思います。

◎杉本委員 若い人たちが昼間にきちんと申請を出して、親の承諾、印鑑なしで自分たちで取れるような状況にはたしかなっていなかった。だから、高校生や中学生が自主的に公民館の部屋を押さえて活動するというオープンな制度にたしか小金井はまだなっていないんじゃないかなと思っていましたけれど、そこはちょっと調べてみますが、私もちょっと……。

◎西尾委員長 できるだけ来やすい雰囲気にするというので見ますと、私も社会教育で話したりすることとときどきあるんですけども、大体年配の、退職されたような方ですよ。ときどき若いお母さんがいるんですが、それは保育があるからですね。

なるほどなと思いました。それはコストのかかることなんで、簡単じゃないと思うんですけどね。そうすると、子育て世代、特に専業主婦で子どもと2人だけで家にいるような人には、非常にいい参加の機会ですよ。

◎福井委員 今、杉本委員から高校生云々という話が出ましたけれど、私も今、公民館の企画実行委員をやっておりまして、直接自分の事業・講座は担当しているんですが、高校生としては公民館を实际利用されている高校生のサークルと会ったことがあります。実例として中央大学附属高校のある任意団体の方は、当然昼間は学校で授業がありますから、それが終わったらということで、夕方から夜間にかけて定期的に利用されているという実例がありますから、その手続の申し込みの基準として、高校生が直にできるかどうかというのは、また別問題ですけど、公民館利用としては、高校生も利用されているという実例もあるということです。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。

伊藤さんはそろそろご退席のようです。

◎伊藤委員 国のほうのヒアリングがあって、11時から会議がありますので、申し訳ございません。中座をさせていただきます。

それで、3月31日で定年退職ということで、次回の会合からは、新しい企画財政部長が参りますので、引き続き市民参加につきまして、皆様のお力をぜひお貸しいただきたいということで、中座して申し訳ないのですが、よろしくお願ひします。

◎杉本委員 ありがとうございます。ご苦労さまです。

◎西尾委員長 残念ですけども。

◎杉本委員 お疲れさまでした。残念ですね。

◎古畑委員 ちょっと細かいんですけども、お伺いしたいんですが、交流センターというのはどういう利用方法になっているんですか。やっぱり若い人来てもらうには、公民館には行きませんよ。狭いしね。あれはどういう利用方法になっているのかね。武蔵野プレイスもありますけど、やっぱりああいう建物じゃないと、若い人は公民館じゃ来ないよ。年寄り来るけど。やっぱり、どういう場でやるかというのは、非常に若い人も敏感だからね。

◎杉本委員 ただ、あそこの交流センターのガラス戸のところなんですけど、あそこは若い人たちのためにほとんど閉めて、お勉強をしたりとか、あれはすごくいい場所になったと思ってい

ます。

◎古畑委員 閉めているでしょう。あれはなんかいい場所になっているから、だから、若い人はあそこに集まりますよね。公民館に來いと云ったって、あんな陰気くさいところ、今の若い人は行かんわね。場所もへんぴだし、狭いでしょう。

◎杉本委員 そうですね。

◎古畑委員 いろんな緑やらあるけれども、狭過ぎて、半分図書館が占領しちゃってるから、だから、場をまず作らないと、ああしましょう、こうしましょうと言っても、特に若い人は、そういう場に非常に敏感だから、交流センターの利用法というのは、市はどこまで関与できるの？

◎事務局 直接、市が予約を受け付けたりということはないんですけども、予約のシステムとして、個人の方が申し込めば借りられるという形になっていますので、もちろん高校生などでも利用できますし、実際おっしゃるとおり、非常に利用率が高い施設になっています。

◎古畑委員 そうすると、やっぱり若い人向けの場所だよな。町の真ん中にあるということもね。

◎西尾委員長 とにかく、一度行ってみるといのは大事だと思うんです。建物があって、仮に入りやすいようなところでも、入ったこともないし、入って自分が何ができるのかということがわからないという方は、一度連れて行くしかないじゃないですか。

◎古畑委員 とにかく、僕も時々ぞきますけど、本当に若い人が多いね。勉強しているのか、遊んではいないけれども、ああいう場所は行きやすいんでしょうね。だから、何かあそこを活用しないと、場所もやっぱり検討材料になるんじゃない。やっぱり公民館というのは、ちょっと悪いんですけど、若い人に來いと言ったって。

◎田中委員 きのう、貫井の新しいセンターの見学に行ってきたんですけども、若い人が自由に集えるような、予約なしで座って集えるようなところとか、ドラムをたたいたりできるような防音装置のついているような場所とかあったり、あと、図書館も文句を言われずにずっと一日中勉強できるぐらいのスペースがいっぱい増えていましたので、若い人が増えるんじゃないかなと、見学してきて思いました。

◎西尾委員長 そうですか。ぜひ私も。

◎杉本委員 貫井北センターですよな。

◎田中委員 そうです。貫井北センターです。

◎西尾委員長 行かれました？

◎浅野副委員長 目の前を通っているんですけどね。もう入れるようになっているんですか。

◎田中委員 オープンは4月1日です。

◎浅野副委員長 ぜひ行ってみたいです。

◎西尾委員長 そうですね。

◎古畑委員 だから、いい場所をね。

◎西尾委員長 そうですね。わりとこういう会議は制度とか、考え方の話をしますけども、物や施設はどういうデザインであるかも重要ですね。

◎古畑委員 特に若い人は敏感だからね。

◎西尾委員長 そうなんです。そう思います。施設の数とか、デザインとか、位置とか重要ですね。

◎浅野副委員長 すいません、いろいろ調べていただいて、大変興味深い資料だなと思って拝見させていただきました。

二つ申し上げたいことがあって、一つは対象年齢なんですけれども、子どもがやっぱり多いと思うんです。それも重要なことかなと思うんですが、例えば国民投票法の改正案がまもなく国会に出されると思いますけれども、施行後4年ですかね。18歳に年齢を下げるという話が日程に上ってきていまして、なので、そういうことも考え合わせると、高校生あたりが異世代交流を通して、もうちょっと社会に対して広い視野を持つというんでしょうか、そういうことが重要になってくるかなと思うんです。なので、時節柄というんでしょうか。特に高校生がターゲット年齢層としては重要かなという印象を持っています。それが一つ目です。

もう一つが、資料をざっと拝見させていただいて、実施主体なんですけれども、例えば小平市のように、小平は結構特殊なんだろうね。小平は、市が直接全部やっちゃっていますよね。というところと、市から委託される形でさまざまな民間団体が行っているところと二つぐらいあると思うんです。小金井市はどっちのモデルで考えたらいいのかなというのと、その関連で言うと、国分寺がちょっとおもしろいなと思うのは、町会が結構動いているみたいなんです。7番の国分寺市のところの二つ目でしょうか。地域の安全・安心を考える集いは、本多連合町会がやっていて、本多の町会が非常に積極的に動いているような印象があり、そういうふうには本多町会の例を一つのモデルとして考えてみると、市が直営でやる、民間団体に委託してやってもらう、町内会みたいな組織が動くという三つぐらいのモデルがあったとして、小金井市はどのモデルが一番近いのかというか、どのモデルに準拠して考えると一番生産的なのかなということなんですけれども。市が直営というのは、あまりないんでしょうか。

◎事務局 事業によると思うんですけど、直営になじむものというのは直営で行うと思います。

◎浅野副委員長 小平はみんな市がやっていますよね。例えばシルバー大学とか、土曜子ども広場みたいなところは、委託してもよさそうな感じがするんですが、これも市直営でやっていたりして。

◎事務局 シルバー大学は公民館の事業なので。

◎古畑委員 シルバー大学は公民館の事業だね。

◎浅野副委員長 公民館が直接やっているということですか。

◎古畑委員 直接募集して、講師も選定した。

◎西尾委員長 市民大学的なものですからね。

◎事務局 講師ぐらいはもしかしたら、外部に頼んで、謝礼等の報償費をお支払いしているこ



とはあると思うんですけど。

◎古畑委員 シルバー大学は、始める前に希望者を募って、どういう講師がいいですかとか、予備調査をやって講師を決めているようです。

◎浅野副委員長 これを逆に考えると、小金井市の公民館はそういう企画をやっていないという。

◎杉本委員 はい。今回、画期的だったのが貫井北センターで、本当にびっくりしたんですけど、市民に委託団体を作ってもらって集まった人たちで公募で始まっているんですね、運営主体を。だからもう、よくそれが……。

◎田中委員 攻めていらっしゃいますね。

◎杉本委員 積極的に行政のほうから後押しをして、そういう市民を募って、運営ですね。管理までやるかどうかは私は聞いていないんですが、委託を市民にやってもらうという姿勢でこれからもう始まっているということですね。私はすごく、市はそういう、市民がやりたいことにお金なり制度の面で後押しするけれども、主体は市民というのが小金井にはすごく向いているんじゃないかというふうに、すごく市民が元気なように思います。

◎浅野副委員長 三つのモデルと申し上げましたけれども、ちょっとざっくりした言い方なんですけど、ヒアリングをする際に誰に聞くと一番いいかということで、今のお話を伺うと、小金井の人たちはやっぱり、市民の側というか、グループをつくってそういうことを企画していくような人たちに聞くほうが、例えば、町内会の人に聞くよりはいいという感じなんですか。

◎西尾委員長 国分寺の本多連合町会ですね。小平は町会が全くないはずですよ。珍しい自治体ですけども、武蔵野もないと思います。

◎浅野副委員長 え、そうなんですか。

◎西尾委員長 全国を探しても町会が組織されていないところというのは珍しいんですけども、戦後、GHQが全部廃止したものの、雨後のたけのこのようにどんどんできてきて、やっぱりそれは行政にとっても必要だったようです。GHQの考え方は、草の根保守主義はもうやめておこうと思ったんだろうと思うんです。武蔵野は明らかにそうですね。だから実は、何かを伝達する時、何か委員を出してほしいとかいう時にそういうものがないと行政から見ると不便だろうと思うんです。新たにコミュニティセンターなどをつくると、別の住民協議会的なものができたりしますが、町内会を手足のように使うという言い方は語弊がありますが、そういう自治体もあれば、もうちょっと自発的といいますか、距離のあるところもある。そこら辺は、小金井はどうですか。相対的な話ですが。

◎事務局 小平市さんが町会がないというのは知らなかったんですけど、箱物として確か、公民館の数がすごく多い自治体だったと思いますね。だから公民館の人とか、この中でわりと出てきやすい状況があるのかなと。小金井については、町会もやはり、都市部のほかの地域と同じで、少し弱まっているという話を聞くことのほうが多いかなと思います。

一方で、市民活動というのは盛んだという話を聞くことが多いです。

◎古畑委員 僕ら、新聞見ているもね、よく小平の話は、いろんな政治問題も引ってくるめて。あれはどこがやっているのかな。好きな人がいるのか。

◎西尾委員長 多分、施設をたくさん造ったというのは、それを補完させるための活動を、行政がエンカレッジしてきたということなんだろうと思いますけどね。

◎杉本委員 小金井は子ども会が健在ですから、運動会なんかを前原三丁目でやるんですけども、それは子ども会と町会が一緒になってやるんです。ただ、町会は今は、そのまま年齢が上に上がっているだけですので、やっぱり異世代の交流の場ということになれば、子ども会と町会が一緒になってやる行事のようなところで異世代の交流の場が発生しているというふうには考えます。

今、町会がやっているところではごみゼロ化推進会議、町会から1人ずつ出すんだというところが、有志の方も入るといふ組織に変わって、ごみゼロ化推進会議というのができたんですけども、若い方も、誰が入ってもいいんですが、そこは異世代の交流の場にはなっているんですけども、大体入る方が60歳から私たちの年齢の上の方がほとんどなので、そういうところは異世代の交流の場になれない。若い方がなかなか積極的に参加しにくいところだと。

環境市民会議は今、異世代の交流の場を目指しているわけではないんですけども、学芸大の学生さんや、あるいは若い方たちが入って一緒にやっているところですけどもね。

◎古畑委員 NPOなんですか。

◎杉本委員 いえ、それは行政が。

◎古畑委員 ああ、行政が。

◎杉本委員 環境基本条例に基づいて、きちっと市から補助金をもらって活動しているところですよ。

◎西尾委員長 浅野先生が言われたように、誰に聞けばよくわかるのかということはおもしろいポイントで、この次の議題ですが、ヒアリングをするときのどこにフォーカスが置けるかということで重要なポイントだと思います。

◎浅野副委員長 すみません、ちょっともう1点。学童が小金井市はすごく強いという、学童保育の連合会、学童が独自の運動会をやられていますよね、たしか。

◎杉本委員 ええ、やっています。

◎浅野副委員長 あれは結構珍しいような気がするんですけども、あれはどういう、PTAとはまた別の組織であるんですよ、きっと。

◎事務局 学童保育連絡協議会という、お子さんを学童に預けているお母さん、お父さんの集まりで、年に1回、大運動会をやっているというのは聞いたことがあります。

◎浅野副委員長 結構活発に活動されているんですか。

◎事務局 恐れ入ります、あまり詳しくは存じ上げておりません。

◎浅野副委員長 PTAとは完全に独立の組織ということですよ。

◎事務局 PTA連合会はまた別ですよ。

- ◎五島委員 小学校、中学校もP T Aなので、学童というのはもう、預けている組織なので、その父母会があって、その活動が活発ということです。
- ◎浅野副委員長 ちょっと興味深い組織だなと思ったものですから。
- ◎西尾委員長 学童の親御さんというのは、働いておられるということですね。P T Aはどちらかというと、主婦の方が多いですか。
- ◎田中委員 働いていますね、みんなね。
- ◎杉本委員 今はもう、そんなことを言っていられなくなっているのです。
- ◎坂爪委員 私は去年、それこそP T Aの役員を、本部ではないんですけども、ちょっと末端の役員をしていたんですが、そのときに学童の話を聞いて「ああ」と思ったのは、やっぱりどうしても、少子化ではないんですが、基本的にお母さんは子ども1人につき年に1回P T A役員をやってくださいと、今は人数が少ないのかわからないけれども、二巡三巡して、どうしても働いていないお母さんだけではなくて、働いているお母さんは関係なく、一応建前としては募集をかけているという状況がP T Aで、学童は、すみません、又聞きで正しくないかもしれないんですけども、学童の申し込みは市のほうとか、そちらのほうで申し込んでやるので、多分、学校のそばには学童があるんですけど、全く別の団体みたいな感じで取り扱って、一小のところにあるさくらなみ学童の話なんですけれども、そこのお母さんはP T Aの役員もやりつつ学童でも役員をやって、だから、土曜日とかは集まって、広報か何かだと思うんですけども、学童の写真を撮ったり取材をして学童での広報雑誌を出し、さらに年1回、今年は小金井公園だったと思うんですが、小金井公園で運動会をやったりとかしていて、話を聞くと、忙しいのに大変だなというのと、私は働いていないので、学童ってそんなにすごかったんだなと感心したのがすごく強烈に覚えていました。
- ◎杉本委員 市政に関心があるといえば、そういえば学保連の方たちが、昔ですけれども、陳情かな、何か、子どもにこういう環境によくないということがあれば市に物申すという活動は、過去ですけれども、活発だったというふうに、P T Aで学校に出すとかいうことじゃなくて、学保連で学校に物申す、市に物申すという活動は非常に活発だったような気がしています。
- ◎西尾委員長 そうですか。フルネームは、何ていうんですか。
- ◎杉本委員 私は、学保連としか……。
- ◎五島委員 学童保育連絡協議会だと思います。
- ◎古畑委員 そうですか。それはN P Oなんですか。
- ◎五島委員 いやいや、保護者が集まったグループだから。
- ◎古畑委員 もうそれは、市のほうから作れということで作った？
- ◎五島委員 いやいや、そうじゃないと思います。発端は僕は知らないですけども。
- ◎西尾委員長 ちょっと坂爪さんにお伺いするんですが、働いておられるP T Aの役員のお母さんもわりといらっしゃいますよね。
- ◎坂爪委員 やっぱり、どうしても働いていないお母さんのほうが多いんですけども、逆に

いうと、そうすると、働いているということを除いて全然かわりがないのも困るし、逆にそう言うと、ほんとうのフルタイムではないですけどもパートをやっている方もいらっしゃいますし、フルで働いていらっしゃるし、そういうのを区分けしていると、どこで働いているか、働いていないかという問題もあるし、やっぱり子どもの学校の事業に親として参加してほしいという思いがあるのかわからないんですけども、どうしても、例えば小さい赤ちゃんがいるとか、もう転勤が決まっていて、ここの学校にはあと3カ月いないとか、そういうお母さんは別にして、基本的に話し合いで決めて、だめだったらくじを引いて決めるぐらいの感じで決めています。その中で、例えば決まった中で、あなたは小さい子がいるから日曜日とか土曜日とか、そういう日だけ学校にちょっと来てやれるような仕事でいいわよとか、そういうのは中で一応割り振りをして、軽い、重いという言い方はあれなんですけれども、やっているんですが、基本的には働いているからといって全て免除になるという方針ではないと聞いています。

◎西尾委員長 それはそうでしょうね。

◎坂爪委員 逆に、働いていて後回しにすればするほど、5年生、6年生になって大変なときに役が回ってくるから今のうちにやっちゃうわというお母さんもいらっしゃいます。

◎西尾委員長 だから、免除かどうかって、なかなか大きな 이슈ですよ。

◎坂爪委員 そうですね。

◎西尾委員長 病人がいるとか介護があるとか、そういうことを言っていたら担い手が全然いなくなると思いますね。

◎坂爪委員 そうですね。中には全然そういうのを見越して出ていらっしゃるお母さんもいらっしゃるんですけど、くじにすら出てこないというんですが、そこはそこで、出てこなくても代表の方が引いて決めますよというふうには言うんですが、やっぱりそういう方って、なってもあんまり出ていらっしゃらないですよ。だから、完全に絶対平等とかいうわけにはいかないんですけども、建前としては関係なく、絶対に1回はやってほしいという感じでやっているような感じはしました。

◎杉本委員 お聞きしていいですか。つまり、役割として仕方がなくやるけれど、学校を変えたいとか、あるいは、周りの地域を変えるために積極的に時間がなくてもやりたいというような、そういう組織にだんだんなっていかなって来たということなんですか。

◎坂爪委員 難しいとは思いますが、中にはもちろん、「私、頑張るわ」と中心になっているお母さんもいらっしゃるんですけども、見ていると、やっぱりそれはほんの一握りで、どうしても、核家族化ではないんですが、おじいちゃん、おばあちゃんも遠方にいらっしゃって誰も面倒を見てくれる人がいないとか、それで小さい子どもさんを抱えているとか、そういう方はやっぱり、生活が大事というか。私の考えでは、余裕があるからこそこういうふう頑張ろうという気持ちができると思うわけで、生活がかつかつだったり、ほかにいっぱいいっぱいだったらやろうとは思わないと思うんです。結構受験される子どもさんを持っているお

母様とかの話も聞くので、そういう方はやっぱり、しょうがないからやっちゃうわという人が多いと思うし、逆に、多分、私が知っている方では数人なんですけれども、やるんだったらもっとやろうというお母さんもいらっしゃるので、ちょっと一概にみんなやる気がないわけではないと思うんですけれども。

◎杉本委員 すみません。

◎坂爪委員 いえいえ、違います。だと思っんですが、ちょっとそこら辺はやっぱり、いろいろな人が集まって一つの小学校、地域のいろいろな、貧富の差もなく集まって、いろいろな考え方が集まっているので、やっぱり考え方もいろいろあるので。

◎西尾委員長 大変参考になりましたね。時間ですので、この件は議論が尽きない気もするんですが、ここで、資料についての議論は一区切りとしてよろしいでしょうか。5分ほど休憩をとって、また再開したいと思います。

(休憩)

◎西尾委員長 それでは、再開したいと思います。今の近隣市と小金井市の異世代交流事業というのもの、入っていけばそれぞれ興味深いものがあると思いますけれども、今日の中心の議題というのがヒアリングの内容ということになりますので、そちらに移っていきたいと思います。皆さんのほうからいろいろご提案をいただいていますので、どなたからでも、ご提案をお話しただければと思います。

◎田中委員 私が一番初歩的で、多分、皆さんの考えているものよりも完全にレベルが低いような気がしますので、まず先にお話しします。

私は小金井雑学大学という生涯学習の場に携わっているんですが、この大学の学生のほとんどが60歳以上で、定年退職をした男の人が多いいんです。なぜか男性ばかりなんです。それで、このごろやっと、数人ですか、若い人がちらちら参加するようになってきてまして、やる講義のプログラムを見て若い人が来るような、子どもを連れてたくさんの方が来るような講義もありますので、すごく異世代との交流になっているかなと思うんですけれども、ここ数年、そういうふうにならば若い人が増えてきてまして、小学校の中学年ぐらいのお父さんが子どもを連れて講義に来ていた人がいたんですが、その人を雑学大学の理事のほうに引っ張り込みました。そういうことがあります。

このごろ、いろいろな行事に子連れのお母さんとかお父さんとかが参加している姿が昔よりも随分増えてきたような気がしますので、そういう若いお父さんを対象に、今まで市政に参加していない方だと思うんですけれども、これから市政に関心を示してほしいなと思ってアンケートを考えていたので、大分レベルが低いと思います。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。雑学大学というものは、吉祥寺にもありましたね。長いことやっていた。今もやっているのでしょうか。

◎田中委員 やっています。

◎西尾委員長 やっていますか。

◎古畑委員 今は、自由大学と言っていますね。

◎西尾委員長 そうですか。私も何で見たかわからないんですが、ひょこっと行っておもしろさに感動しましたね。意外な学者も来ていました。

◎田中委員 そうですね。この前、東海林のり子さんって、報道リポーターの、芸能リポーターですか、あの方がいらしたら95名ぐらい参加して、もうびっくりしましたけれども。若い人よりも、あの方は80歳ぐらいの人なのでお年寄りが多かったんですが、呼ぶ方によってはすごく若い人が、大阪の芸人風の人 came ときはもう、座る場所がなくなったりすることもあるんですけれども。

◎西尾委員長 呼ぶ方によっては多くの方が参加するのですね。それで、吉祥寺の場合は「3ない」だったですかね。講師の謝礼がないのですよね。

◎田中委員 はい。

◎西尾委員長 それから参加費もなくて、場所も誰かが提供するのですよね、非常に気楽に駅前の何かの施設でやっていました。何というか、行くことに全く敷居が低いという印象がありますね。

◎田中委員 そうですか。小金井もそうです。ただ、吉祥寺とか西東京にも今あるんですね、東京雑学。それを手本にして始めたところなので、「3ただ」でやっていたんですけれども、場所がとても苦勞しますね。最初は小金井工業高校を借りていたんですけれども、ちょっと会議室が上のほうにいつてしまっけて借りられなくなったので、今は抽選に行くのにととても大変です。

◎西尾委員長 大体日曜日ですか。

◎田中委員 そうです。日曜日です。月2回やっています。

◎西尾委員長 オフィスは大体しまっているのて、ちょっと気が利いた人が貸してくれればよいですね。駅の近くに山のようにスペースがあるだろうと思いますけどね。

昔からあるものなので、それでまだ生き延びているということなんです。おもしろい試みですね。可能性がまだまだあるんじゃないかなと、個人的に感じています。

◎田中委員 もっともっと若い世代に広がっていつてくれるといいと思うんですけれども。

◎西尾委員長 何かを知る、学ぶという機会が、確かに今は増えたんだらうとは思いますが、伝統的な、地域のいろんな人と触れ合うことができるというものですな。どうもありがとうございます。

◎杉本委員 要するにこのヒアリングは、何を聞き取るのかというイメージがまだ固まらないうちにちょっとこれを出してしまったのかなというのがあります。ですから、市政に関心のある人にリサーチをするのと、全く関心のない人にリサーチをするのとは全然質問する内容も変わってくるので、これを一貫して全ての人にしていいかどうかというのはあるんですけれども、私はもう、具体的に、関心のある人でほんとうに陳情、請願に行ったりとか、それから市民のパレードをしたりとか、原発に関しては、すごく、この間もパレードが行われましたし、そう

いうところに何回か見たり行ったり参加したりしているので、そういう参加の仕方をする若い人たちは結構たくさん小金井にはいらっしゃると思います。

ただ、それが一固まりなのか一部なのかどうかということは、やっぱり意見の分かれるところだと思うんです。子育て世代はやっぱり、子どもを持ったお母さんやお父さんはものすごく食の安全とか給食に対してはいろいろな場面で活動されていると、私は小金井では思っていて、他市に比べて関心が低いとか、あまり積極的に参加しないと私自身では思わないです。だから、私をもっと参加してもらいたい人は多分30代や、あるいは、学生はもう転出入の届けを出さない人が多いので、また卒業すれば外へ出て別のところに行きますから、ずっとここで住民票を提出しているという人をターゲットにすれば、30代で独身の方なんかは、働いていて、ここにきちっと住民票を移している方なんかはどうなのかなというのが非常に関心のあるところだと思います。

でも、その人たちにどうリサーチするのかということになれば、個人的に会って、探して、お会いして、ほんとうに数人ですけれども、きちっと聞き取る、参加されているかどうか、ここにあることですね。議会傍聴へ行かれたことはありますか、とか。日曜議会はどうかとか。行かれなかった場合は、なぜ行かれないか、その理由を聞くとか、そういうようなことを。

◎西尾委員長 日曜議会はどのぐらいやっていますか。

◎事務局 頻度は、年1回です。

◎西尾委員長 年1回。めったにないわけですね。

◎事務局 人数までは把握はしてないですけど、来ていただく方もいらっしゃいますし、あと、議会はユーストリームを使ってインターネットで放映もしているんですけど、そちらを見る形で参加していただいている方もいらっしゃるようです。

◎杉本委員 関心のある方は、もう結構知っていらっしゃるんで、その方にはアンケートはとれるんですけども、でも、それは関心のある方のアンケートになるということですかね。

それから、あと、一番下に書いたんですけど、私は小金井のホームページは使いやすいかどうかを周りに聞いているんです、若い人なんか特に。そうしたら情報がとれないんです、なかなか届かない、自分の欲しい情報がほかの自治体に比べてなかなかとれない。たどり着けない。だから、もう諦めてしまうという状況が生まれているというので、インターネットを使う若者の市政への関心というのは、まずはインターネットから入るので、そこをもう少し改善したほうがいいんじゃないかと思って、なぜ改善できないのか、そこをリサーチしてみてもいいんじゃないか。市の事情が、いろいろ予算的なものもあるでしょうけれども、ごみの分別の出し方についても、他市よりなかなかたどり着けないんだそうです。

◎西尾委員長 三鷹のホームページはすごく水準が高いとかいうので、2005年に国際レポート連合の賞を取ったりしていましたね。私はあまり比べてないので、こんなものかと思っていましたけれども、非常に使いやすいと言われてます。

◎杉本委員 そちら辺を聞いてみてもいいんじゃないかなと、ホームページについては。

- ◎西尾委員長 なるほど、これは本当にいろいろありますね。
- ◎杉本委員 でも、これはもう、深くどう聞き取るのかというのはわからないんですが。
- ◎西尾委員長 いえいえ、いろいろなお提案をいただいているので、本当に今日いらしている人に、どうしてこの会議を、知ってご興味を持たれたかというのも1つ興味深いところですね。
- 小金井でデモとか反対運動、例えばマンション建設反対等は、ありますか。
- ◎古畑委員 いや、あるんでしょう、潜在的に。何か……。
- ◎杉本委員 マンション建設のデモは聞いたことないです。
- ◎古畑委員 聞いたことないよね。
- ◎杉本委員 そういう集会は以前出たことがありますけど。
- ◎古畑委員 今日的な問題については、関心を持った人は結構いるんじゃないかな。ただ、声を呼びかける人がいないから。
- ◎浅野副委員長 反原発デモをやっていました。
- ◎杉本委員 そうですね。反原発のデモです、さっきの。
- ◎西尾委員長 どちら辺でやるんですか。
- ◎古畑委員 小金井でやったの？
- ◎杉本委員 ええ。
- ◎西尾委員長 その場面に行って、どうして参加していますかって、ちょっと体動かしたいからとか、スポーツ感覚だとか、動機は無限に多様かもしれないですね。
- ◎古畑委員 何人ぐらい集まったんですか。
- ◎杉本委員 中町のリサイクルセンターの会場が、結構あのときいっぱいになったから何百人かじゃないですか。100人以上はいたみたい。
- ◎古畑委員 世代は三、四十代ですか。
- ◎杉本委員 そうですね。お子様連れが多かったです。子ども連れで一緒に行かれて、3月11日に。
- ◎西尾委員長 参加は本当にいろいろありまして、審議会に公募委員として、それに応募して参加するという制度的なものもあれば、単発的に物が言える場面に行くとか、パブリックコメントをするとか、本当にいろいろあるだろうと思うんですが、そういうことを活発にやっている人にどうアプローチするかという問題がありますよね。
- ◎古畑委員 それなりに、そういう人たちは問題意識を持っているんだろうね。別に原発とかいうことにこだわらず。
- ◎西尾委員長 1人が幾つもやっている人はよくいますね。いろんなところに行くと、大体似たような顔が集まるということもありますし。
- ◎古畑委員 それはどういう形で集まったの。誰か呼びかけ人がいたんですか。100人ばかり集まったのは。
- ◎杉本委員 それは、インターネットがあって、そこで拡散していく、またはチラシもあった



りとか、いろんな形で若い人たちは広がる手段を持っているんです。私たちは電話だったり、口コミだけじゃない、ですから、最後のインターネットを駆使するという、若い人たちに向けてのホームページの作成の仕方はとても大事だと思います。あとは、もうユーストリームが議会で、小金井は始まっていますが、ユーストリームでやっているということを若い人たちにどうお知らせしているのか、そこら辺も気になります。お休みでもこれは聞けますから。

◎西尾委員長 インターネットといいますと、ガバメント2.0というアメリカで始まったもので、千葉市で実施しているのですが、スマホのアプリで、例えばカーブミラーがちょっとねじれているとか、ささいなことを市にどんどん伝えると、気になることを全部受け付けますという話です。

松戸市にすぐやる課というのがあって、例えばこのどぶ板を直してくれと言ったら、すぐ行きますという課がありましたが、その現代版といいますか、ネットでいろんなことを伝えられるのです。この道路を拡張してくれなんて言われても、20年かかるかもしれないですけども、対応できるものは対応するという、必ず部門につなげるということで、私は又聞きなんですけど、NHKの「クローズアップ現代」で特集していたそうです。ネット時代の新しい参加のあり方というのは、議論の1つのテーマかなとは思いますが。

◎古畑委員 僕も平凡なことしか書いていないので、今日、お話を聞いて、これは改めないかななど。

◎西尾委員長 もう一言なりご発言いただければと思います。

◎古畑委員 車座方式というのは、ここでも議題になりましたけど、話しやすいですよ、四角張ったところで話すより。集まりがあれば、そういうものを採用してもらって、いろいろコミュニケーションをとったらどうかと思ったんですけど。

◎西尾委員長 車座方式は私も有効だと思うんですが、どうやって車座方式というところに行くかという。何か大きな問題があって、その利害関係を持っている人だとやりやすいだろうと思うんですが、何もなくて車座というのも難しいかもしれません。

◎古畑委員 そうでしょうね。だから、そういうミーティングをまず積み重ねていかないと、最初からこうあるべしという考えでいってもなかなかあれでしょうから、僕は聞いて、今の杉本さんのお話を参考にして、そこからスタートしていかないと、かくあるべしでスタートしてもなかなか会合というのは成長しませんから。いい話を聞いたと思いますので、それを盗むわけじゃないけど、そういう意見です。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。

◎浅野副委員長 前から申し上げていますように、小金井市内で市民参加を促進するような活動をされている方に、お話を伺うのがいいんじゃないかと思ひまして、四つぐらい考えてみました。

一つ目が子育て支援をやっていらっしゃるグループの方、できれば代表、あるいは、代表に紹介していただいて、会員のような方を1、2名お話を伺うというのでもいいかもしれません。

二つ目が、これは例として挙げたにすぎないんですが、「き・まま」という小金井市に後から引っ越してこられた若いお母さんの会があって、そこが雑誌を作っているらしいです。このグループの方は結構アクティブに活動されているみたいですので、最近、小金井に来て、小金井を見て、どんな感じで活動されているのかというところを伺えたらおもしろいかなと思いました。

三つ目が、「いがねこ」という大学生というか、若い方を中心にした組織なのですが、ネット上のあれを見ると活動が今、停止しているんですかね、もしかして。

◎事務局 ホームページは更新が止まっているようです。

◎浅野副委員長 停止していますよね。だから、どうかわかりませんが、若い方で活動されている方にお話を伺うということです。

4つ目が、異世代交流事業を行っているということで、さっきの「ひ・ろ・こらぼ」もそうだと思うんですが、そういうところの代表の方とか、中心的に活動されている方とかにお話を伺う。

伺う内容としては、活動を進めていく上で、市との間で要望したいこととか、問題になっていることとか、例えば、さっき雑学大学が場所がないということなんかはかなり重要なポイントだと私自身は思っていて、何で困っているのかとか、もっと活動を展開していく上で課題は何かといったことを聞いていけたらいいかなと。そのうち、市政の市の側ですぐにでもできることがもしあれば、お金をかけずにすぐできることがあればやっていけるでしょうし、ちょっと時間をかけなければいけないことがあれば提言の中に組み込んで、次期に送ることもあるかもしれないです。

あと、それから、お話を伺っていて思ったことなんですが、先ほどの杉本委員のインターネットの話なんですが、実は、例えば、ごみの分別については、検索エンジンとかで小金井市、ごみの分別方法で検索すると、50音順になったリストがぱっと出てくるんです。すごく丁寧に作っていただいているので、だから、たどり着ける人と、たどり着けない人がこんなにはっきり分かれちゃうのは何でなのかなというところが興味深くて、せっかくだらいいものを作ってもたどり着けない人がいる……。

◎杉本委員 中身はすごくいいんだそうです。

◎浅野副委員長 なので、それは何でなのかなと。ネットに対して、ネットはインターフェースが人によって全然違うので、ある人にとっては非常に使いやすくて、別の人にとっては非常に使いにくかったりするんで、その人によってどう見え方が違うのかといったことも含めて、ここでやることではないのかもしれないかもしれませんが、市民と市の接点としての市のウェブサイトのある方の検討はどこかでやってもいいのかなと思いました。

◎西尾委員長 どうもありがとうございました。

◎坂爪委員 坂爪です。さっきの補足になってしまうんですけど、私もインターネットが好きでよく使ってますけど、たどり着ける人とたどり着けない人の差が私も1回わからなかったん

ですけど、グーグルとか検索エンジンで「小金井 ごみの分別」と入力すると、わりとぴったりのページがヒットするんですけど、小金井市のホームページから検索するといっぱい出てきてたどり着けないので、その違いではないかと思いました。

◎西尾委員長 なるほどね。

◎浅野副委員長 審議会情報とかいうのが出るんですよ。

◎坂爪委員 そうなんです。ばーっと出てきて、多分インターネットに詳しい人とか、やりなれている人は、じゃあ、普通に単語をいっぱい入れてヒットしやすいようにしようとかできると思うんですけども、あまりなれていらっしやらない方とかは、市のホームページに行つて、市から検索があるからしちやえばいいんだという、議題ばかりで肝心なところにたどり着かないとか、情報はいっぱい書いてあるので、見やすい、わかりやすい……、私から見ればわかりやすいところにバーがあつてたどり着けるんですけど、やっぱり……。

◎古畑委員 たどり着けない。

◎坂爪委員 なれていらっしやらない方とか、私の同世代もネットをあまり詳しくなくて、いまだに古い形の携帯を使つている方とかいらっしやるので、そういう方とかはたどり着けなくて、よくどうすればいいのって聞かれることはあるので、多分なれているか、なれていないかの違いじゃないかと思いました。

◎西尾委員長 小金井のホームページの検索の問題について聞かれることはありますか？

◎事務局 ホームページについては色々議論になっていて、担当部局じゃないので、あまり責任のあることは言えないんですが、ある議員の方からは26市で一番見づらいということもありましたし、担当もホームページについては問題意識を持っていて、いかにお金をかけずに工夫できるかと今、検討しているところだといったことを聞いています。やはり検索力の違いというのは一番大きくて、情報をとれる方は、ホームページの中での検索画面があるんですけども、それをうまく使える方というのは、わりと欲しい情報にすぐ行けるんですけども……。

◎西尾委員長 でも、今の話はそれを超えて、グーグル全体でということですか。

◎坂爪委員 私がやったときは、小金井の検索ページで調べたとき、ごみではなかったかわからないですが、ごみとか分別と調べたんですけど、やっぱり議題とかでごみ、分別とか、ごみ問題とかが全部ヒットしてしまつて曖昧な単語も拾つてしまうので、言い方悪いですけど、面倒くさくなくなつてしまつたので、もうグーグルでカチカチつとやると、市民でまとめていらっしやる方が当時はいらつしやつたので、そのところを見てみたり、あとは諦めて電話して、ごみ対策課に聞いたことがあつたんですけど、それがなくても単語を増やしていったりしたら、わりと素直に出たなど。その単語で画像で検索して、画像のアドレスからたどつていったりとかいうのをやったので、それは画像からたどる人はわからないとできないと思うので、私はわりとたどり着けたんですけど、そうでもない方は、やっぱり市の情報だから市のページに行つて調べたものの、文字しか出てこなくて、しかもいっぱい、が一つと一覽でごみ問題、ごみ問題とか、ごみ、ごみ、ごみ、分別とか出てきて、これのどこにあるのとなつてしまうのです。

◎西尾委員長 確かに。

◎坂爪委員 情報がたくさんあってとてもいいと思うんですけど、あり過ぎて自分に必要なものがピックアップできない状態で、多分そこでもう嫌になっちゃうとか、できないわよとなっちゃうんじゃないかなど。情報がいっぱいあることはいいことでもあり、調べる時は悪いことでもあると思うので、それで、なかなかでも何を一番上に持ってくるかが問題で、一番ヒットするのが欲しいのは、その人にとってはごみの収集別だったりするけれども、別の人はごみ問題について知りたい人とかがあるので、何を一番トップに持ってくるかとかは難しいと思うんですけども、それがなれていらっしゃらない方はきっとそこでくじけちゃうんじゃないかなど。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。それ以外に、浅野先生からいろんな論点が出ているわけですが、どういうところでターゲットを絞るかとか、それ以外にいらっしゃいますか。どうぞ。

◎福井委員 若者ということで、年齢のターゲットはいろいろ捉え方があるんですけど、資料を見ると18歳から25歳という若者の年齢をターゲットにしている場合が多々あるんですけども、大学及び大学生との連携ということで、市民参加を進めている動きが見られるようなんです。

それで、一つとして考え方としては、大学生として、いろいろ資料があるんですけども、内閣府の資料としては地域参加ということに対しては、関心度は年代でいうと、一番20代が高いんですけど、逆にいえば、イベントの実際の参加率といえば一番低いということです。そうすると、逆に学校の協力を得なきゃいけないんじゃないかということで、東京学芸大学の学長に地域参加、例えば、ボランティア等を含めて、そういうことで学校の単位をあげてはどうかということで直接話したことがあるんですけど、学長のほうからはボランティアまでプラスするような単位の付与は考えられないということを言われました。また、1年後、同じ学校の副学長に聞いたら、ぜひいいアイデアですから学長のほうに申請しますという実例があります。また、大学生の興味がある分野ということで、20項目ぐらいいろいろ紹介されているデータがあるんですけど、大学生が一番興味あるというのは環境保全というところであり、二番目は同じくくりなんですけれども、保健、医療、福祉というところが2番目に興味がある分野です。三つ目にまちづくりといったことが出てくるんですけども、私個人からすれば、大学生が小金井市のまちづくりに、市のまちづくりというんじゃなくて、あくまでも任意団体とかイベントとかいうまちづくりに大学生が参加していくと市政参加ということにつながるんじゃないかと思います。

それと、やはりまちづくりとかイベントに参加する大学生に対して、市が認めるところがあって、神奈川県のある市の認定制度で社会参加認定書というものを神奈川県のある市では発行しています。これは大学生が就職するときのエントリーシートにも、社会参加認定書と記載もできるぐらいのグレードのものだということで、例えば、小金井市で大学生が学校の単位はもらえ

なくても、市で主催するとか、任意団体が主催する市の行事に近いイベントに、社会参加認定書をあげて公表していくということの使い方でも、大学生としては信頼度を持って動けるんじゃないかと考えます。

例えば、国分寺市の例なんですけれど、国分寺市のモリタテ会という団体があるんですけれど、当然大人のグループで国分寺市を盛り立てようということでイベントを開催したんですけれども、大学生も協力させてくださいということで、逆に大学生が5、6名口コミで参加したということです。そういう事例をたまたま就職活動の中で一筆、さっきの社会参加認定書じゃないんですけれど、記載事項の特記事項でこういうイベントに私は参加しましたということで、同じ5人の方が就職活動をしたら5人ともその内容で、当然別々の就職先なんですけれど、ヒアリングの面接の項目に当たって質問の応酬があったそうです。それで、本人の実力、能力もあるんですけれど、そのテーマの会話につながって、5人とも希望する企業に内定したという事例もあるということで、国分寺市モリタテ会の代表の方が意見を聞いているということで、やはり大学生も来てくださいという程度だけだったら非常に参加しにくいけれど、冠的なものをあげるといってもあれば、何かプラスアルファの効果も出てくると考えられます。

それを目的にあくまでもするというのではないけど、そういうアイデアの提案で、市政のイベントとか参加する方法もあるんじゃないか。だから、若者参加としては、幅の広い年代であるんですけど、大学生ということターゲットにしてイベントに参加ということの方策もあるんじゃないかと思います。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。それに関連して、私の簡単な最近の見聞のシェアですが、トークサロンという行事を三鷹市市民協働センターで、大学生のグループ、ICU生が多いのですが、やっているんです。地域に関心があるのか、よくこれだけ集まったなという感じはするんですが、ほかの大学も少しインボルブしていました。私が参加した2月23日のトークサロンでいうと、それは、サービス・ラーニング特別研究という少人数のクラスなのですが、インターンシップなどをやることで3単位を与えているんです。

夏休み、1か月ぐらい働くんですが、その延長で、地域に興味を持った学生が集まって、発表会を行っています。やはり大学生がそういう形で深くのめり込むのは、単位になるとかいうことがわりと大事だなとそのときに感じて、今もお話を伺って思いました。就職に役に立つというのは、多分そういうことを言うのでしょうか。採用担当者が「お、なかなかやっているな」と思う可能性があります。そういう下心があるかどうかはともかくとして、どこかで実利といいますか、大学生生活の教育とリンクさせるのは大事なことかなということを思いました。

あと、川口さんからメモが届いているんですけれども、短く要約されているので読んでみますが、「異世代交流事例については、保育園や学童保育を利用しているお父さん、お母さんの活動が活発だと聞いているので、その現状を聞いてみたい」ということです。「ヒアリング内容については、自分ができること、やりたいことにポイントを置いてみたらどうかと思います」ということが来ております。既に皆さんから出たご意見の中にも学童保育のことなどあります

が、働いている保護者の人でもいろいろそういう思いを持っている人たちがいて、参考になるんじゃないかということでしょうね。ということで、時間はあと10分あまりなのですが、次回に向けて、どういうところをターゲットに、どういう形式で、どういう質問項目で、ヒアリングをしていくかを決定しましょう。どういう形がよろしいでしょうか。ヒアリングというところを絞っていきたいと思うんですが。

◎**五島委員** 補足ですけれども、浅野さんのところも4つ挙がってますけれども、一つ目のまづ子育て支援グループの代表なんですけど、前のこの会議の委員だった、高橋雅栄さんが、NPOを立ち上げて活動をしているので、市内の、その分野の情報は彼女がかなり持っていると思います。二つ目の「き・まま」なんですけど、1人だけ僕は会ったことがあるんですけど、編集社に勤められていて、結婚して退職して、子育て中で、その人のグループで何かやりたいということで、つくり始めたのがこの「き・まま」らしいです。そういうモチベーションを持った人もいるということです。それから、いがねこなんですけど、多分、コアメンバーは卒業しちゃったと思います。就職をしたと聞いています。ただ、そういう一部の人は、そういうまちづくり系のNPOに、事務局に行ったりしてる人もいるらしいので、そういう意味ではそこを、今はどういう体制になっているかわかりませんが、そういうことのように。それから、四つ目の異世代交流事業なんですけど、ずっと、さっきもお話が出ましたけれども、また夏祭りだとかのコアにいるのはひ・ろ・こらぼのメンバーなので、調整して話を聞くことはできるだろうと思いますし、先ほど言われたように、行政との関係だとか、要望だとか、何とか具体的に出てくるのかなとは思いますが。

それとあと1点、僕からなんですけど、ちょっと半分ずれますけど、八王子の市民参加推進審議会の今の委員長が僕の友人で、今は町会、自治会のことをテーマに話し合いを進めているらしいんですが、その委員会が町会から出ていってるらしいんです。ここの推進会議から、その八王子に出て行って、ちょっとその委員の人たちと懇談するようなことをしてもいいのかなと思ったので、提案をしておきます。

◎**西尾委員長** いろいろのご提案ありがとうございました。

◎**古畑委員** それと、僕は小金井で市報で男女共同参画室というのがあって、「かたらい」という雑誌を出してるんです、雑誌でもないな、パンフレット。あの辺には結構そういう人々に接触してもいいかという、編集部がありますから、一遍、その編集の人にも意見を聞けばいいかなと思います。それから、ちょっと余談ですけど、僕は行ったことないんですけど、東小金井に日本歯科大のグラウンドがあるんです。あれは夏祭りをものすごく、あそこの会が、だからあの辺にも何か責任者の人にお会いすれば、また意見を、夏祭りを、グラウンドがあるんです、東小金井に。そこで花火大会とか、何とかやってるんです。非常に長く続いていると聞いてますから、何か核になる人がいるんじゃないですか。

商店会や住民も入りますからね。

◎**西尾委員長** 候補がたくさん挙がってるので、全部を順々にやるわけにもいかないですし、

仮に本人をお呼びするとかしても、どういう形式が、ヒアリングがありますかね。個別にもうそれを、2人ぐらいで聞いて、レポートを出すというやり方もあると思いますし、みんなでここで話を聞くということもあるだろうと思います。そのやり方について、いかがでしょうか。いろんな委員会でヒアリングというのはわりとよくありますね。今まであまり、こういうところではヒアリングはされてないんですか。

◎五島委員 先にテーマを絞って、多くても3つだろうと思いますけど、その相手によって、ここに呼ぶんだったら呼ぶし、行くなら行くと。相手によって出ていくか、こちらに来てもらうかとしたほうがいいんじゃないでしょうか。

◎西尾委員長 複数挙がっている中で、やはり子育て世代は一つの柱になり得るかなと思うんです。ニーズをひしひしと日々感じている人たちで、行政に対する要望のようなものもあるだろうと思いますし、おそらく年配ではない若い世代でしょうし。もう一つ、若者というか大学生とかというの、一つの候補としてあるかなと思いますね。雑学大学のような、いろんな多世代が来る可能性がある、そういう制度ですね。

◎杉本委員 時間の関係でどうなんでしょうか。呼んでいただいて、ここでみんなでヒアリングをしてとかという時間が、果たしてとれるかどうか。つまり、赴くか、ここで聞き取るかということは、団体によってとは幾つの団体になるのかわからないですけど、今日も私話したいことがあったんだけど、時間が、また次のときに、機会が。だから、全体はこればかりじゃないわけですから、もっと重要なテーマも出てくる中で、やっぱりあと何回かしかない中で、どうやったら時間配分をとるかということになれば、ここでヒアリングをするのは、ほんとに重要な1回か2回であるにしても、ほかの団体へは赴いて行って、それぞれが担当を決めて、出向いていく。

◎西尾委員長 そのほうがいいですかね。

◎杉本委員 そうでないと、ほかの審議がもうできなくなっちゃう。

◎古畑委員 それぞれの委員が一つや二つ、個別にヒアリングしてしまうと。

◎西尾委員長 個別に、2人ぐらいで行くのがいいかなという気はしますけれども。2人か、3人か、時間が合えばですね。

◎杉本委員 フォーマットさえ決まれば、それを持って、その団体の代表に会って、何が問題なのかを聞き取ることはできると思うんですね。

◎西尾委員長 質問項目も何かかたいフォーマットよりも、ちょっとオープンにして、いろいろな工夫、最近の動向、課題など、全般に聞いてもいいだろうと思います。

◎浅野副委員長 できれば、全員で共有したほうがやっぱりいいかなと私は思っていて、例えば1団体1時間ぐらいかけて、15分から20分ぐらいお話していただいて、残り30分から40分で、こちらから少し質問させていただくという形でやれば、1回の会議で2団体お話を伺えると思うんですね。どのぐらいの団体数を取り上げるかにもよりますが、2回使えば四つ。前期のようにワーキンググループの形で、1回余分に会議をすれば、四つの団体は話

を伺えるかなと。今、具体的に名前が挙がっているのが、高橋さんのやっている団体の@SACH I ですね。あと、雑学大学、それからひ・ろ・こらぼもそうですね。あとは、何でしたっけ。そのぐらいですかね。あと八王子の市民参加推進審議会ですか。

◎杉本委員 あと、今、梶野公園で、もう委託事業を始めて3年目だと聞いているので、そこで子どもたちを対象に、いろいろな遊び場を、異世代交流、結果的に異世代交流の場になってるんですけど、そのこがねい子ども遊パークですか、その人たちがもう随分実績があるので、その人の代表の方はどうでしょうか。私も結構知り合いの方いらっしゃるんですが。

◎西尾委員長 次回、浅野さんの提案で、2グループに聞いてみる。今日、結論でこの2グループと決められないので、ちょっと私と事務局とで相談したいと思いますが、どうでしょうかね、2グループから、それぞれ40分ずつとか。

◎杉本委員 長い……。聞き取る時間だけですか。

◎西尾委員長 聞き取るのみではなく、質疑も含めてです。45分ずつ、1時間かけますかね。

◎浅野副委員長 50分ぐらいで考えて。

◎西尾委員長 50分ぐらいで、あと20分ぐらいをちょっとまとめにするとか、ということはどうでしょうかね。やっぱり全員で共有するものが幾つかあったほうがいいという気は私もしますね。

◎浅野副委員長 事務局的にはどうですか。

◎古畑委員長 そうね、事務局はどうですか。

◎事務局 どなたかをお呼びするとなると、やっぱりどういうお話を聞きたいかというのを事前にご説明しないと、ご判断できないでしょうから、粗々のものでも質問内容を少し決めないといけないかなと思います。今、少し市民参加というところから離れたお話もかなりあったと思います。別にそれをこの場でお聞きになることは構わないと思うんですけど、参加に向けた手法の研究というところで、幾つか質問内容の柱はあったほうがいいのかないかなという感じはいたします。

どなたかをお呼びするのであれば、例えば五島委員とかにご相談するかもしれませんが、できる範囲で手配します。

◎浅野副委員長 質問事項全体の中では、バランスということかというと、例えば次回の会議を丸々それに使ってしまうのか、その前にやっておくべき審議事項があるのかとか、そういったことはいかがでしょうか。

◎西尾委員長 1回ぐらい大丈夫じゃないですかね。どうでしょうか。

◎杉本委員 私も2回って言われると、少ない中でどうかなと思って、分配したらどうですか。ここでやるのを1回とって、あとはもっと団体にもう少し聞きたいということは、個別で聞いてきて、報告をするということを入れてはどうですか。

◎西尾委員長 そうです。それがないと、やっぱり数はこなせないと思いますしね。

◎杉本委員 ですから、1回はしょうがないにしても、2回そのことに。



◎西尾委員長 2回というのは、2グループ。次回1回の中で2グループにヒアリングすると考えています。

◎杉本委員 2時間の中でということですね。

◎西尾委員長 2グループというか、2人とかですね。

◎杉本委員 わかりました。そうです、そのぐらい。

◎西尾委員長 ということですよ。そういう方向で、ちょっと詰めてみたいと思いますが、よろしいでしょうか。一つは子育てのグループですかね。

◎浅野副委員長 そうですね。

◎西尾委員長 ヒアリング相手については、ご相談するかもしれませんし、こちらで可能などころを手配します。

◎五島委員 一つだけ、浅野さんが言われたように、ちょっとワーキンググループぽくして、ざっくばらんに話を聞くような、ここではここでもいいんですけど、そのほうがいいような。

◎浅野副委員長 正式な会議じゃなくて。

◎五島委員 はい。何かそういうふうにしたらいいんじゃないですかね。まだちょっとそのほうがざっくばらんにいろいろ、ここに座っていると話しにくいんじゃないかなという。それよりも何か、特に高橋さんとかはぶっちゃけた話を聞き出したほうがいいかなと思います。

◎杉本委員 五島さん、今おっしゃっているのは、委員会外ということですか。

◎五島委員 そうそう。

◎五島委員 一応、提案として申し上げているんです。

◎杉本委員 回数が増えると。

◎五島委員 そういうことです。

◎西尾委員長 残る議題は次回の日程なんです。ですから、そこで何をやるかはやっぱり決める必要があると思います。ヒアリングをするか、それともヒアリングのようなものは別途やって、議論するか。どうでしょう。次は、5月20日ぐらいということですよ。

◎杉本委員 会の前に、一応、提案シートの取り扱い方を、前回から今回にずらしていただいて、また今回から、次々回にずらすということですよ。今日私が提案して、審議、検討をお願いするつもりで、一応、いろいろ書いてきたんですけど、それは次回ではなく、次々回ということですね。

◎西尾委員長 運営が長くなって申し訳ないです。

◎杉本委員 今、五島さんがおっしゃったことが承認されれば、次回のあれでは、私のほうから皆さんにご検討できるんですけども、それはまだ決まってませんよね、五島さんの提案がここで承認、まだいただいてない。

◎西尾委員長 五島さんのご提案というのは、ここではヒアリングをしないということですね。

◎杉本委員 そうです。それで別の場所で。

◎五島委員 反対ではないんですけど、あまりかつちりした場にしないほうがいいかなという

ふうになっちゃうと思うので。それはそれこそ、委員会の進め方だと思いますけど。

◎西尾委員長 本日は3月末ですが、ヒアリングを4月中にやる必要がありますね。大丈夫でしょうか。

◎杉本委員 出られる人は出るとか。

◎西尾委員長 ワーキンググループという形で、インフォーマルな場にするのは皆さんのほうではどうでしょうか。

◎浅野副委員長 調整に時間がかかると思います。相手のある話なので。

◎五島委員 4月、1か月あれば大丈夫じゃないでしょうか。高橋さんを想定して言ってますけど。

◎西尾委員長 では、もう時間を大分オーバーしていますので、今回は普通のこういう会議をすると。議題は、それまでに何らかのヒアリングを個別か複数かで行って、それをシェアしながら進め方を議論するということで、よろしいでしょうか。

では、個別のヒアリングにつきましては、もう個別相談ということで、何ならば、雑学の方に聞いていただいたのを簡単なメモにさせていただいてもいいと思いますし。

◎古畑委員 私が聞いてみますよ。

◎西尾委員長 そうですね。それぞれ、ご提案いただいたのは、それを出していただくということで。それに基づいて、次回、引き続きこの議論をしましょう。多分、市民参加以外の他の市民活動的なものというか、市民協働とかということも含まれておると思いますが、その中でできるだけ参加的なものを抽出する作業を次回やりたいと思います。

◎浅野副委員長 そうすると、どなたをお呼びしたらいいかということと、何を伺うのか。質問趣旨みたいなのをつくらないと多分依頼自体できないと思いますので、それはこちらで書かせていただいと。

◎西尾委員長 お願いします。全員の参加は難しい可能性が大いにあると思いますけど。

◎浅野副委員長 依頼できますか、大丈夫ですか。

◎事務局 多分、役割分担をつくるとすると、浅野副委員長が質問の中身を考えていただいて、五島委員にお願いしてヒアリングを設定していただくというのが一番スムーズにできるような気はします。

◎西尾委員長 ちょっと窮屈なスケジュールかもしれないですけど、そうしましょう。

◎杉本委員 日程は？

◎西尾委員長 次回の会議の日程だけ決めておきたいと思います。休憩に入ります。

(休 憩)

◎西尾委員長 では、今回は5月21日(水)18時30分からとします。

◎杉本委員 全体のロードマップが私も少しつかめないで、ほんとに去年出した提案シート、まだ全然検討もしてないし、議題にも挙がってないということのほうが、私にとってはすごい焦ることなんですね。なので、このヒアリングの内容についても、目標は何年の何月とかとい

うのも決まってないですよ。全体像が見えないので、私は今日はお話するつもりでいたんですけど、どの程度検討議題について、皆さんに提案していいのかもちょっと迷っているところです。だって、検討する時間がなければ、提案することもできないわけですから。次には、お時間をいただけるのか、その次の次になるかぐらいは教えていただけますでしょうか。

◎西尾委員長 では、次回最初にやりましょう。

◎杉本委員 説明する時間はそんなにないので、皆さんがどう思っているかということをお聞きすると。一応、提案シートが出てるわけですから、去年から積み重なって。それについて、取り扱うというふうに私たちは決めているので、それをちゃんとどう取り扱うかについては、しっかりと皆さんからご意見をいただくということはルールだと思います。

◎西尾委員長 では、次回の最初の議題で、できるだけ5分ぐらいで説明していただいて、10分ぐらいの議論ということでいかがでしょうか。

◎杉本委員 でも、大事なことでしたら、長くなっても構わないと思いますよ。

◎西尾委員長 それはそうですね。

◎杉本委員 それはヒアリングよりも大事なこともかもしれないし、それは皆さんがお聞きになってから決めていただければと思います。

◎西尾委員長 では、次回の最初の議題で、杉本さんのほうから提案いただくということにしたいと思います。

では、それ以外の進め方、それからロードマップということも言われましたので、年度もまたぎますので、1年間どんなふうに進めていくかも合わせて議論したいと思います。以上でこの会議を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

(午後0時10分閉会)